

京王百貨店の「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」とは

■歴史・規模・集客、いずれも当社ナンバーワンの名物催事！

13日間で売上高6億円前後という百貨店の物産展としては最大級の規模を誇る、年に1度の新宿店の名物催事「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」（以下、駅弁大会）を、1月12日（木）～24日（火）の13日間、新宿店7階大催場にて開催します。

1966年2月に開催した第1回大会以降毎年1回の開催を重ね、52年間続くロングヒット催事となりました。百貨店の物産展としては最大級の規模を誇っています。

今回は、約30の駅弁調製元による「実演販売」と、全国から航空便や自動車便などを駆使して運ぶ「輸送駅弁」を合わせ、44都道府県の駅弁約300種類に、全国の「うまいもの」をあわせて展開します。



前回の第51回大会(2016年1月)の様子。

会期中は30万食以上の駅弁を販売。

■お客様に人気の理由

●新宿に居ながら日本各地の味が一堂に

北は北海道から南は九州まで全国各地から駅弁が300種類以上集う*。地域を象徴する食材や独自の調理法で作られた味の競演が繰り広げられる様は、いつからか「**駅弁甲子園**」と呼ばれるほどに。

*当社が50年以上にわたって受け継いできた、独自のネットワークで可能に。東日本、西日本といった枠組みはなく、純粋に全国各地から、大会の販売実績やお客アンケートなどを踏まえた、選りすぐりの駅弁をピックアップ。

●「対決」など大会ごとの特集がある

その年の出来事や、お客様の購買動向を踏まえ、毎年担当者が頭をひねる目玉企画は、当社ならではの切り口。名物の「対決」など大会の楽しみ方をご提案。今年は「黄金」「陶器」にも注目です。

●実演販売が中心の食欲を誘う会場の雰囲気

調製元が毎日早朝から体制を整え、地元の何倍もの販売個数を用意し、自慢の味や新作をお客様にアピールする、熟練の技と熱い思いの詰まった折り箱がお客様を引き付けます。

●「地域振興」を目指す、大小さまざまな駅弁調製元の競演

日本一とも称されるこの駅弁大会で地域の名を売って、最終的に地元の人を呼び込みたい。運営サイドである当社も、参加する駅弁調製元も思いは同じ。「地域振興」「駅弁業界の活性化」が旗印です。

●新作、現地での販売数が少ない希少駅弁にも出会える

駅弁大会は多くのお客様に駅弁をお披露目できる絶好の機会ととらえて、新作を投入してくる調製元も多数。

●チラシが楽しい

300種類以上から選抜された約90種類の駅弁を会場案内も兼ねた折り込みチラシに掲載。その年の特集のお披露目とともに、地域順にマス目状に並ぶ駅弁は目録のよう。大会前にはこのチラシを肴にその年の戦略を立てる「チラシ飲み」を行うファンの方も。